自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

（評価項目の構成）

Ⅰ.理念に基づく運営
- 1. 理念の共有
- 2. 地域との支えあい
- 3. 理念を実践するための制度の理解と活用
- 4. 理念を実践するための体制
- 5. 人材の育成と支援

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
- 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- 1. 一人ひとりの把握
- 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
- 3. 多機能性を活かした柔軟な支援
- 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援
- 1. その人らしい暮らしの支援
- 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

Ⅴ. サービスの成果に関する項目

【記入方法】
- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号23　〇初期に築く本人との信頼関係
  - 項目番号24　〇初期に築く家族との信頼関係
  - 項目番号25　〇初期対応の見極めと支援
  - 項目番号26　〇馴染みながらのサービス利用
  - 項目番号39　〇事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号53　〇身だしなみやおしゃれの支援
  - 項目番号59　〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援
  - 項目番号60　〇お金の所持や使うことの支援
  - 項目番号61　〇日常的な外出支援
  - 項目番号62　〇普段行けない場所への外出支援
  - 項目番号63　〇電話や手紙の支援
  - 項目番号64　〇家族や馴染みの人の訪問

【用語について】
- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名　グループホーム　こいのさと

（ユニット名）　1F

記入者（管理者）
氏　名　菅野　雪絵

評価完了日　H20　年　　6　月　　9　日

自己評価票

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ、職員全員で話し合い、利用者様・御家族・地域社会に分かりやすい事業所独自の理念を作り上げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員はもちろん利用者様・御家族・来訪者の方にも見えるよう掲示してあり、日々意識をしながら実践に向けて取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議や事業所からの広報を活用し、御家族や地域の人々に実践を伝えている。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	事業所の行事の際に近隣住民の方にも参加して頂いている。又、散歩等で挨拶を交わしたり、お花や野菜等を頂いたり、近隣の方と触れ合いがある。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会にも加入しており、地域の行事にも積極的に参加している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通じ事業所の実践と共に、認知症ケアの啓発に努めている。又、人材育成の貢献として実習生の受け入れも行っている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行ない、理解し改善に向けての検討や実践に取り組み、サービスの向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告と共に、参加メンバーから質問・意見・要望を受け、改善に向けて取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービス相談員の方が月に２回来訪され、事業所の実情やケアサービスの取り組みを理解して頂いている。又、利用者様や職員との交流も図れている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内で権利擁護の方針を作成し、掲示している。職員はそれらについて理解し実践している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、関連法も一緒に綴られている。事業所では、それらについて周知徹底を行っている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては時間をかけ不明な点を随時確認しながら進めている。解約についても御家族等と十分に話し合いを行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の言葉や態度からその思いを察し、それらを職員間で共有し、利用者本意のサービスを提供出来るように心掛けている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月担当職員より手紙や写真等で報告し、御家族向けの広報で行事報告の他に職員紹介も掲載している。金銭については使途の確認、出納帳等も郵送している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族には手紙や訪問時に意見や要望が言いやすい雰囲気を作り、出された意見、要望等はスタッフ会議で話し合い、サービスに反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員が会議や面談の他に、随時意見や要望を言いやすいように心掛けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	変則勤務の時間帯は、利用者様や職員の状況に合わせて組まれており、必要に応じてその都度調整している。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係の重要性を認識しており、異動や離職がやむを得ない場合も、利用者様や御家族に影響しないよう、配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修として新入職員研修、計画作成担当者研修等を実施している。また、研修に参加した職員は研修報告書を作成し、職員会議で発表し、知識や技術の共有を図っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所等と交流があり、ケアの内容や人材育成への意見交換等が行われている。又、法人内の研修で他事業所職員との交流も図れている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が利用者様と離れて一息入れられる場所や時間を確保している。又、職員の疲労やストレス、人間関係を把握するよう努めており、親睦会も定期的に行われている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	労働基準法や労働安全衛生法に則って、労働条件を整え、健康診断を実施している。又、運営者は事業所で起きている状況変化の把握に努め、事業所や職員が向上心を持って働けるよう、事業所、職員評価を行っている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている（小規模多機能居宅介護）			
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている（小規模多機能居宅介護）			
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)			
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様が気軽に相談したり、話し合えるような雰囲気作りに努め、話しの聞き手にまわり、言葉や表情の裏の真の思いを捉え、共感し、支え合う関係作りを行っている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 　職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	事業所の行事の際には御家族も参加して頂けるよう進めている。面会時には、ゆっくり話を聞き、家族の思いを受け止めるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 　これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	生活歴を把握し、入居後も情報収集を続けている。それらを職員間で共有し、利用者様と御家族の絆が途切れないよう留意している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 　本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の他に元職場の同僚や友人、知人の方が訪問されいる。電話や手紙での連絡を取り持つ等、関係の継続を支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 　利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士の相性を把握し、席の位置を工夫している。又、交流が図りにくい場合は職員が仲介し、良いコミュニケーションが取れるよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み 　サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も移動先の施設や御家族の相談にのったり、移動先に訪問したり、つながりを大切にしている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1. 一人ひとりの把握**				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や言葉、表情から真意を把握し、出来るだけ希望に応じられるよう支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後も利用者様、御家族からの情報を職員間で共有し、ケアに活かしている。御家族にはケアの為の情報収集ということを理解して頂いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の暮らし方や力量に合わせて個別的な支援をしている。支援内容も統一するよう申し送りを行ない、職員間の連絡、情報交換も密にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者様、御家族からの要望を取り入れ、職員の気付きを反映させている。利用者様に添った課題をあげ、利用者主体の計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリング以外にも状態に変化があれば見直しをするようにしている。ケース会議時には、職員間で気付きを話し合い、ケアプランに反映している。		

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的状況、精神的状況を個別的に記録し、業務前に確認することを徹底している。又、介護計画の実践内容も記入し、情報を蓄積している。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	広報を通じて地域にボランティアや慰問等をお願いし、協力頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者様の希望や状態に合わせて、往診訪問歯科、訪問理容等のサービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターを通じて、他事業所や地域環境の情報交換や協力関係を築いている。		

	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの関係を継続する為にも、出来るだけかかりつけ医で診察出来るように支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	神経内科医師と協力関係を築いており、職員の相談に応じて頂いたり、利用者の症状に応じて助言や指示を仰いでいる。		
45				
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	御家族と共に主治医や医療相談員と密に話し合い、利用者様、御家族の声を聞きながら早期退院に向けた支援を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意思確認書を作成し、御家族、主治医と共に治療方針、介護方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	御家族には入居の段階で事業所の対応出来ない部分の説明を行ない、納得して頂いている。重度化してきた利用者様に対しては、医師と連携し、利用者様、御家族の意思を確認しながら支援している。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	リロケーションダメージを最小限に留める為、プライバシーに配慮した情報提供を行っている。又、在宅に移る際には、事前に外出や外泊の機会を設けている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** (1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報に関わる誓約書を提出しており、漏洩防止に努めている。又、言葉の掛け方や関わり方にも注意を払っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様の自主性を尊重する声掛けを行ない、力量に応じて選択する場面を出来るだけ多く作るようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の気分や状況に合わせて、その時々の意志を尊重し、職員のペースにならないよう心掛けている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている（認知症対応型共同生活介護）	行事や外出、入浴時等の着替えの際には、その人の希望に添った身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。理・美容も本人の希望に応じて対応している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員は一緒のテーブルに着いて、楽しく食事が出来る雰囲気作りをしている。又、その人の力量に合わせて準備や片づけを手伝って頂いている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者様それぞれの好みを把握し、健康状態や他利用者様への影響も考慮しながら、楽しんで頂けるよう支援している。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の排泄パターンを把握しトイレ誘導することで失禁やパットの使用を減らしている。又、トイレ誘導やオムツ交換の際にはプライバシーや羞恥心に配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の周期や時間帯は希望に合わせている。湯温も好みに合わせ、ゆず湯等の季節に合った楽しみも提供している。又、異性介護を拒む方には同性職員が対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その時の状況に合わせて、休息の声掛けを行っている。又、安眠へつながるようココアやホットミルクを提供し、ゆっくりおしゃべりをする等の工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	生活歴や力量に応じてお手伝いをお願いし、快く行えるような声掛けや感謝の言葉を伝えるようにしている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）	利用者様の力量に合わせ、御家族と相談し、少額を所持して頂いたり、買い物の時に支払いをお願いしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	利用者様の希望に添って、散歩やドライブ、買い物等の外出を日常的に行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	行事等の外出の他に御家族の理解や協力を得ながら、行きたい所に行けるよう支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	家族関係に配慮しつつ日常的に使用出来るようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）	面会時間は設けておらず、いつでも気軽に訪問出来るようにしている。湯茶等を提供し、ゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルがあり、職員に周知徹底を図っている。職員も正しく理解しており、利用者様の人権を尊重している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中利用者様が外出しそうな気配を察知し、見守りやさりげない声掛けを行ない、一緒についていく等の対応をしている。利用者様の意識にも気を配り監視されているという意識を持たれないよう声掛けや距離に注意している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員が作業をしながら見守りを行っている。夜間は１～２時間毎の巡視以外にも、物音がすれば様子を見に行き、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に応じて物品を置いている。利用者が包丁等の刃物を使用する際には、職員が見守りを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した時は報告書を作成し、発生原因、今後の予防について話し合い、再発防止に努めている。又、事故防止委員会を中心に職員会議で勉強会を開き、未然に防ぐ取り組みをしている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルがあり職員がいつでも対応出来るようにしている。応急手当の講習には積極的に参加するようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、定期的な避難訓練を実施している。地域の協力体制については、運営推進会議等で協力を呼び掛けている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者様の意思を尊重しながら、状況に応じたリスクを把握し、その都度御家族に説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子を把握し、少しでも異常があれば、バイタル測定し、記録を取っている。情報は職員間で共有し、重症化を防ぐ為、早期発見に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録の記入と共に、処方内容に変化があれば、職員が周知出来るよう日誌へ記入している。又、服薬は傍で見守り、飲み込むまで確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘気味の方には、水分を多く飲用して頂き、負担にならない程度の運動を心掛けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声掛けを行ない、力量に応じて見守り、介助を行っている。夜間は必要な方に義歯の消毒を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後利用者別に食事や水分の摂取量を記録している。水分摂取を拒む方には、ゼリーを提供する等、状況に応じて工夫している。又、献立は管理栄養士が作成したものを参考に利用者様に対応した献立を作成している。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染症マニュアルに沿って行っている。流行している感染症については早期に理解を深め、対策を講じる資料の掲示を行っている。又、職員と共に利用者様にも毎年インフルエンザの予防接種を受けて頂いている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為、夜間調理具の消毒を行っている。食材も賞味期限に注意し、新鮮な物を購入し調理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1)居心地のよい環境づくり**				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはプランターやベンチを置き季節の花や木を植え、明るい雰囲気となっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花や利用者様と一緒に作成したカレンダーを飾っている。又、不快な音や光に注意し、居心地の良い空間作りに配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルや椅子は、利用者様の状況に応じて配置しており、相性の良い利用者様同士で過ごせるようにしている。一人で過ごされたい方には、ソファでのんびり過ごして頂いている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ家で使っていた物や写真等を持ち込んで頂くようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節は外気温、室温、利用者の状況に合わせて調整している。換気は随時行ない、トイレには消臭剤を使用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内のベッドや家具の位置は利用者様の動きに合わせており、建物内部の要所に手すりが設置されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様の症状に合わせて、居室に表札を飾ったり、湯飲みに名前を付ける等行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先のベンチで日光浴や外気浴を行うことが日常となっており、おやつを食べたり畑で農作業を行う等の活動を行っている。		

(　　部分は外部評価との共通評価項目です　)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目

項目		取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない	⑤その他（　　）
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	⑤その他（　　）
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない	⑤その他（　　）
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	⑤その他（　　）

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	⑤その他（　　）
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない	⑤その他（　　）

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム　こいのさとの理念です
このまちで
いつも笑顔で
のんびりと
ささえあい
ともに生きよう

平成20年10月10日

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営
- 1. 理念の共有
- 2. 地域との支えあい
- 3. 理念を実践するための制度の理解と活用
- 4. 理念を実践するための体制
- 5. 人材の育成と支援

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
- 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- 1. 一人ひとりの把握
- 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
- 3. 多機能性を活かした柔軟な支援
- 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援
- 1. その人らしい暮らしの支援
- 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

Ⅴ. サービスの成果に関する項目

【記入方法】
- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
  - 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
  - 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
  - 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
  - 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
  - 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
  - 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
  - 項目番号61 ○日常的な外出支援
  - 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
  - 項目番号63 ○電話や手紙の支援
  - 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】
- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホーム こいのさと

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)
氏 名 菅野 雪絵

評価完了日 H20 年 6 月 10 日

自己評価票

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で作成し、職員も事業所の役割を意識し、理念を十分に理解している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員や利用者様、御家族、来訪者の方に見えるよう、掲示しており、日々理念の共有を図り、実践に取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議の中で報告し、広報により、御家族や地域の方にも伝えている。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方が参加出来るような行事がある時は、事前に声掛けし、参加して頂いている。又、散歩等で日常的に挨拶を交わしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、地域の活動や行事に積極的に参加している。地域向けの広報によりグループホームへの理解を深めてもらえるよう努めている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で地域の高齢者について情報交換が行われ、それについての助言や情報の提供を行っている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を職員に伝え、全職員で自己評価に取り組んでいる。評価結果は再確認し改善、向上に活かしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた事項については、職員会議で話し合い、サービスの質の向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービス相談員の方が月２回訪問され、ケアサービスの質の向上の為に意見等を頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内で権利擁護の方針を作成し、掲示している。職員はそれらについて理解し実践している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、関連法も一緒に綴られている。事業所ではそれらについて周知徹底している。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては時間をかけ、不明な点がないよう、確認しながら進めている。解約についても御家族が納得出来るよう説明し、理解して頂いている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護サービス相談員の方の訪問を受け入れ、外部に声を表せる機会を設けている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、御家族に生活状況、健康状態、金銭管理等を手紙で報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会時に要望等を聞き、改善する努力をしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員が会議や面談以外にも随時、意見や要望を話しやすいように心掛け、運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様の状態や生活の流れを支援する為に、これに即した職員の勤務を調整している。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの関係の重要性を認識しており、異動は十分に検討されている。やむを得ない離職や異動に際には、利用者様や御家族に影響を与えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修に参加し、研修に参加した職員は報告書を作成し、職員会議で発表してもらい、知識・技術の共有を図っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所との交流があり、ケアや運営に対する意見交換を行い、サービスに反映させている。又、法人内の研修では他事業所職員との交流が図れている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が利用者様と離れて一息入れられる場所や時間を確保している。又、職員の疲労やストレス、人間関係を把握するよう努めており、親睦会も定期的に行われている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	労働基準法や労働安全衛生法に則って労働基準を整え、健康診断を実施している。又、運営者は事業所で起きている状況変化の把握に努め、事業所や職員が向上心を持って働けるよう、事業所、職員評価を行っている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている（小規模多機能居宅介護）			
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている（小規模多機能居宅介護）			
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)			
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が知らない唄や畑仕事等を利用者様に教えて頂き、一緒に行える機会を作っている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状態等、手紙や電話で連絡を行っており、遠方でなかなか来られない御家族には、手紙や電話で連絡頂き、利用者様が安心して過ごされるよう協力関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者様、御家族の関係を考慮した上で、面会や外出等をお願いし、関係が途切れないよう留意している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の他に元職場の同僚や友人、知人の方が訪問されいる。電話や手紙での連絡を取り持つ等、関係の継続を支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士の相性を把握し、席の位置を工夫している。又、交流が図りにくい場合は職員が仲介するようにしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も移動先の施設や御家族の相談に乗ったり、移動先に訪問したり、つながりを大切にしている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1. 一人ひとりの把握**				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とのコミュニケーションを大事にし、常に意思の確認を行うことで、利用者様の希望、意向に添ったサービスの提供に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後も利用者様や御家族からの情報は職員間で共有し、不明な点等があれば、情報を頂き、ケアに活かすようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様の状態を日々観察することにより、その時々に合わせた支援を提供している。又、申し送りを密に行ない、状態の変化に合わせた支援も統一している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者様、御家族からの要望を取り入れ、ケース会議を行ない、職員の意見や気付きを反映させながら提供している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行ない、利用者様、御家族の意見を聞き現状に即した計画を立案している。又、状態に変化があれば、随時見直しを行っている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的状況、精神的状況を個別的に記録し、業務前に確認することを徹底している。又、特に注意が必要な事柄は日誌の連絡事項に記入している。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	事業所の広報誌を通じて地域にボランティアや慰問の協力をお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者様の希望や状態に合わせて、往診や訪問歯科、訪問理容等のサービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じて協力体制が強まり、地域の高齢者の方への支援についても協働している。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や御家族が希望するかかりつけ医の受診となっている。通院は職員が代行しており、受診結果に関する情報は、面会時や手紙等で報告し、情報を共有している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	神経内科の医師の協力を得ており、受診の他にも随時相談出来る体制が出来ている。		
45				
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	御家族と共に主治医や医療相談員と密に話し合い、早期退院に向けて支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意思確認書を用いて、御家族の意向を確認している。緊急時の入院先も事前に決めており、重度化した場合においては、御家族と共に医師から説明を受け、治療方針、介護方針を相談している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	御家族には入居の段階から事業所の対応出来ない部分を説明し、納得頂いている。重度化した方に対しては、医師、御家族と連携し、意思を確認しながら支援している。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	リロケーションダメージを最小限に留められるように、プライバシーに配慮しつつ、詳細な情報提供を行っている。在宅に移る際には、事前に外出や外泊の機会を設けている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** (1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	守秘義務を徹底しており、ケアの中でもプライバシーを侵害するような声掛けや対応をしないよう注意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	リクエストメニューを設け、利用者様の食べたい献立を作成し、提供している。又、日々の生活の中でも、自己決定出来る場面を多く持つよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な１日のリズムに合わせ、一人ひとりの体調に配慮しながら、出来るだけ個別的のある支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている（認知症対応型共同生活介護）	出来るだけ利用者様の希望に合わせて、理美容室を決定している。又、身だしなみについても、利用者様の意向に沿うよう支援している。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや苦手な物を事前に聞き配慮している。職員と利用者様が同じテーブルに着き、楽しく食事出来るようにしている。又、下膳やテーブル拭き等利用者様の出来る範囲で協力して頂いている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者様や御家族より嗜好品の情報を収集し、出来るだけ楽しんで頂けるように支援している。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレで気持ち良い排泄が出来るように排泄チェック表を使用し、パターンや習慣を把握し、誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者様の気分や希望に応じて入浴して頂き、入浴の仕方(湯温やお湯のかけ方等)も利用者様の好みに合わせている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中は活動を促し、生活のリズムを整えるようにしている。又、日中の疲れ具合に応じて、ゆっくり休息がとれるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者様それぞれの得意分野で力を発揮してもらえるように、お手伝いをお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）	御家族と相談し、少額を所持して頂いたり、買い物の時に支払いをお願いしたり、利用者様の希望や力量に応じて支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	外出、散歩、買い物等利用者様の希望に添えるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	御家族の理解と協力を得ながら利用者様の行きたい所に出掛けられるよう支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	利用者様の状態に合わせて出来る限り、御家族や大切な人と交流が出来るように支援している。 又、職員は利用者様の不安や心配事を解消する為、御家族から電話や手紙のやりとりが出来るよう仲介している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）	利用者様の御家族や知人、友人の方がいらした時には、リビング、ソファでゆっくりと過ごして頂けるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルがあり、職員はそれらを理解し、実践している。又、利用者様の人権も尊重している。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者様の動きを把握するように、見守りし、鍵をかけないケアを行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員間で声掛けし利用者様の所在や様子の確認を行っている。夜間はこまめに巡視を行ない、利用者様の安全確保に取り組んでいる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品、洗剤等は鍵のかかる場所へ保管し、刃物等は見えない場所へ保管している。刃物を使用する際は職員の見守りにて使用して頂いている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対策委員会を中心に職員会議やケース会議で利用者様の状態と考えられる事故について話し合い、事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルがあり、職員はいつでも対応出来るようにしている。応急処置の講習には出来るだけ参加するようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を実施し、反省会と共に防災についての勉強会を実施している。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者様の状態に応じて考えうるリスクについて御家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状態を職員は把握しており、変化が見られた時は、バイタル測定し、記録をとり、他職員と連携を図っている。状況に応じて受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての勉強会を実施したり、処方内容に変更があれば詳細な記録をとる等、薬についての理解と情報の共有を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫、水分補給を行ない、運動を働きかけることで、自然な排便が出来るよう支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行ない、力量に応じて職員が見守ったり介助を行っている。就寝前には義歯を預かり消毒している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェック表に記入し、職員が情報を共有している。又、暮らし全体を通して食欲を促し、食が進むように工夫している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルがあり、職員は予防と対策に努めている。又、利用者様には職員と共にインフルエンザの予防接種を毎年受けて頂いている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾は毎晩消毒し、清潔を心掛けている。調理器具、水周りの清潔衛生を保つように職員で実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気になるように花を植えたり、玄関先にプランターを置き、季節感を出している。近所の方が一休み出来るようにベンチを設置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には節句の飾り物や季節感のある物等心地良く過ごせる空間作りを行っている。又、共有空間の飾り付けは、利用者様と一緒に考え作成し、自分の住んでいる家だという意識を高めてもらうようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルや椅子は、その時々の利用者様状況に応じて配置し、仲の良い利用者様同士で過ごせるようにしている。新聞を読んだり、一人で過ごしたい時にはソファが活用されている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族に協力して頂き、居室には今まで使用されていた寝具や家具を持ち込んで頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調整は外気温、室温、利用者様の状態に合わせて調整している。換気は随時行ない、トイレの臭気には消臭剤を使用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内は手すりが使用しやすい高さに配置され、危険防止の取り組みも抑制につながらない範囲で行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口が同じな為、利用者様が分かりやすく、混乱しないような表示を個別に行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先のベンチでおやつを食べたり、畑で農作業をしたり、外気を楽しむ活動を行っている。		

(　　部分は外部評価との共通評価項目です　)

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない	⑤その他（　　）
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	⑤その他（　　）
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない	⑤その他（　　）
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	⑤その他（　　）

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	⑤その他（　　）
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない	⑤その他（　　）

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者本位で生活が送れるように職員全体で話し合い、情報の共有を図りながら、日々取り組んでいます。